

1 2 大間営林署管内における ヒバ漏脂病の発生状況調 査報告（第1報）

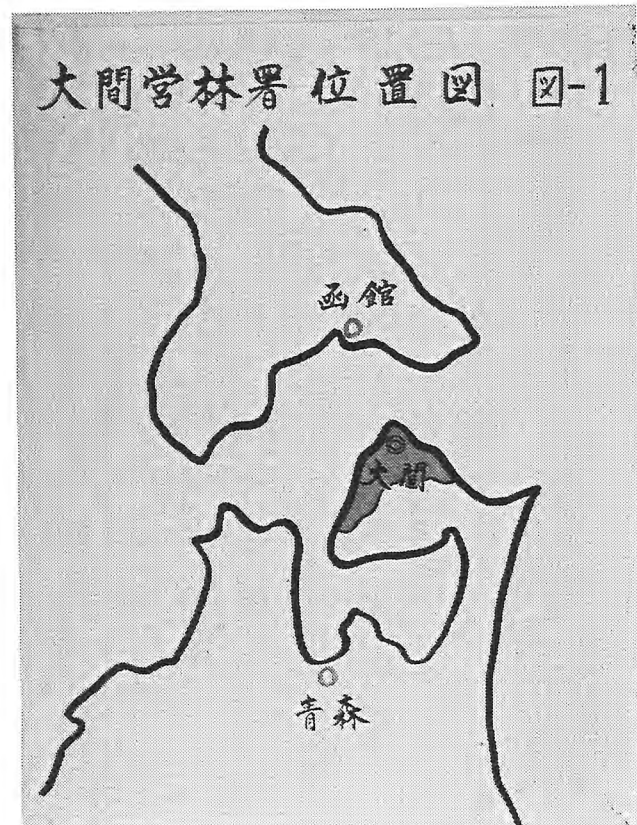
大間営林署 ○ 春日 正 人
石川 博 志
服部 賢 二
中条 潔
加賀谷 一 夫

1 はじめに

大間営林署は青森県下北半島の最北部に位置し、津軽海峡を挟んで北海道と面しています。この地域は津軽半島と並んでヒバの郷土として天然ヒバが分布し、日本三大美林の一つに数えられています。

当署の管理区域は、大間町、大畑町、風間浦町、佐井村の二町二村で21,214HAあり、6森林事務所で管理経営しています。（図-1）

今回の調査は、ヒバ人工林内でヒノキ漏指病に似た状態を、巡視中に発見したので管内のヒバ人工林内では、どのような被害状況にあるかを調査したもので、結果について報告します。

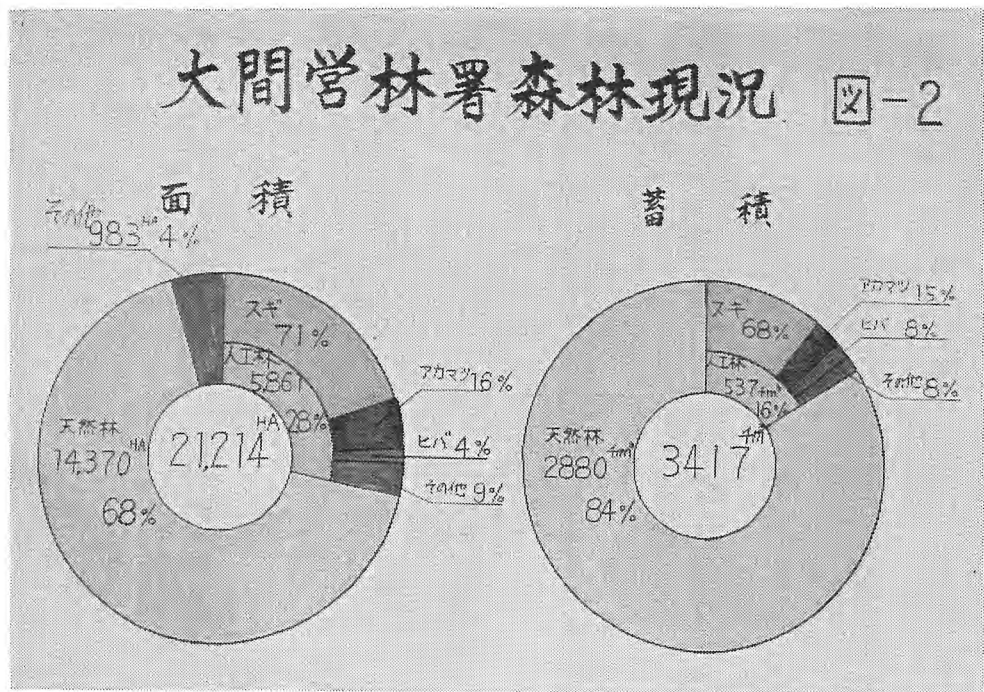


2 当署管内の森林現状

当署の森林現状は管理面積21,214 HAで材積3,417千 m^3 となっています。その内人工林の占める割合は面積で5,861 HAで28%となっています。蓄積では537千 m^3 で16%となっています。

人工林の樹種別面積割合ではスギ71%、アカマツ16%、ヒバ4%となっており6 齡級以下の若齡林が

大部分を占めています。(図-2)



ヒバ人工林については、面積213 HAで93箇所、HA当たり蓄積は約200 m^3 となっています。(図-3)

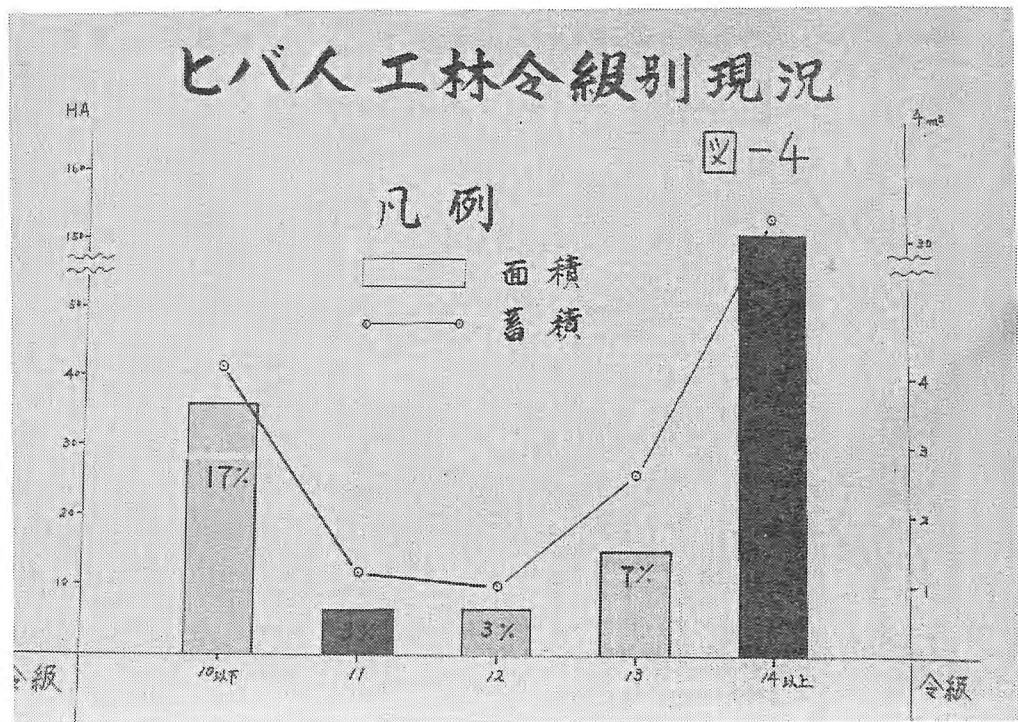
造林箇所の標高範囲は20～470mとなっており、平均では200mとなっています。土壌型別ではB_Dが45%を占めています。(写-1)

写-1



齡級別、面積蓄積については、特別経営造林時代の明治33年～大正10年までに造林された14齡級以上の面積が150HAと一番多くなっています。

(図-4)



3 被害調査方法について

被害調査に当たっては、佐藤ヶ平国有林96林班を小班外6箇所、被害の多い箇所、中位の箇所、少ない箇所毎に10m×25mのプロットを設定し、当該箇所の地況、林況等を調査した。(図-5) またプロット内を毎木調査し、被害本数、材積、被害木の地上高別内訳、発生方位別内訳、径級別内訳等を調査しました。(図-6)

被害箇所の地況林況 図-5

	林小班	面積	林齢	HA当り 本数	HA当り 材積	標高	土壌型	傾斜	方位
被害 小	28は1	1.86	59	1,280	229	225 200~250	RE	15°	SW
	37た	7.59	76	680	236	140 90~190	BD	16°	SW
	71り	10.00	72	1,400	98	385 300~470	BB	20°	NW
被害 中	37ね	4.77	76	1,200	406	150 110~190	BD	15°	SE
	72へ	1.71	60	1,520	292	180 150~210	BE	15°	NW
被害 大	96は4	3.01	70	1,160	258	165 160~170	BD	12°	NW
	(中)	3.01	70	1,040	207	155 150~160	BD	15°	NW
	(大)	3.01	70	1,440	320	145 140~150	BD	20°	NW
	96る	3.45	72	2,000	360	110 70~150	BE	15°	NW

プロット内の調査表 図-6

(10^m × 25^m)

被害多少区分	林小班	本数	材積	被害本数	被害材積	被害率 (本数)	被害率 (材積)	HA当り 本数	HA当り 材積	HA当り 被害本数	HA当り 被害材積
少 ない	28は1	32	5.73	2	0.42	6%	7%	1,280	229	80	17
	37た	17	5.90	1	0.20	6%	3%	680	236	40	8
	71り	35	2.45	0	0	0	0	1,400	98	0	0
中 さい	37ね	30	10.14	3	1.55	9%	13%	1,200	406	120	62
	72へ	38	7.30	3	1.08	8%	15%	1,520	292	120	43
多 い	96は4	29	6.45	13	2.12	44%	33%	1,160	258	520	85
	(中)	26	5.18	13	3.74	50%	72%	1,040	207	520	150
	(大)	36	8.37	22	5.27	61%	63%	1,440	335	880	211
	96る	50	8.64	32	5.90	64%	68%	2,000	345	1,280	236

4 調査結果と考察

今回調査した箇所は被害の状況は、幹の表面の多数の樹脂が筋状に固まって付いており、一部樹脂が幹の傷跡から流れ出ており、ヒノキ漏脂病に似た状態となっております。（写-2～6）

写-2



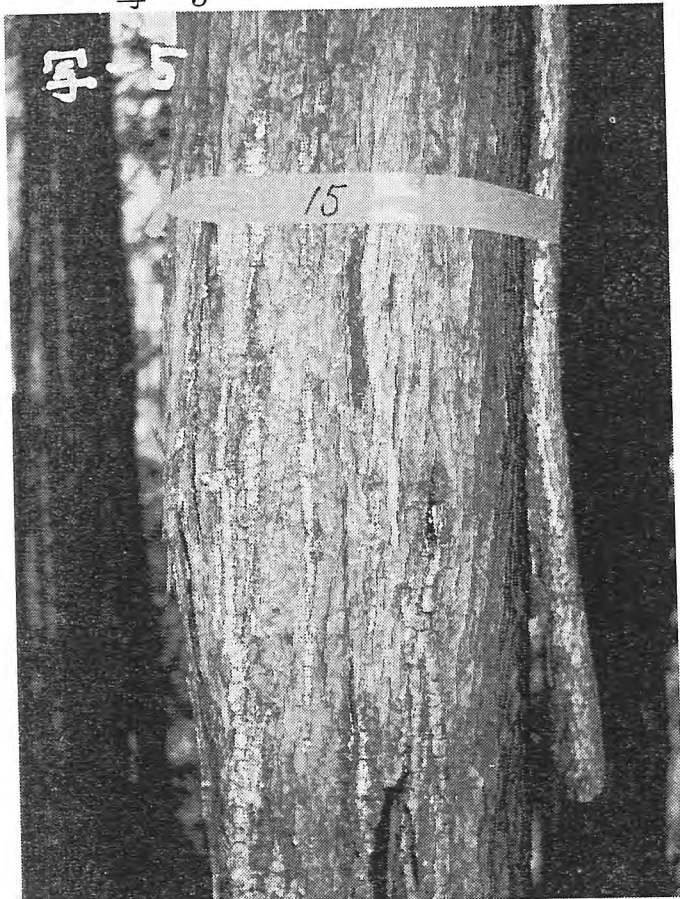
写-3



写-4



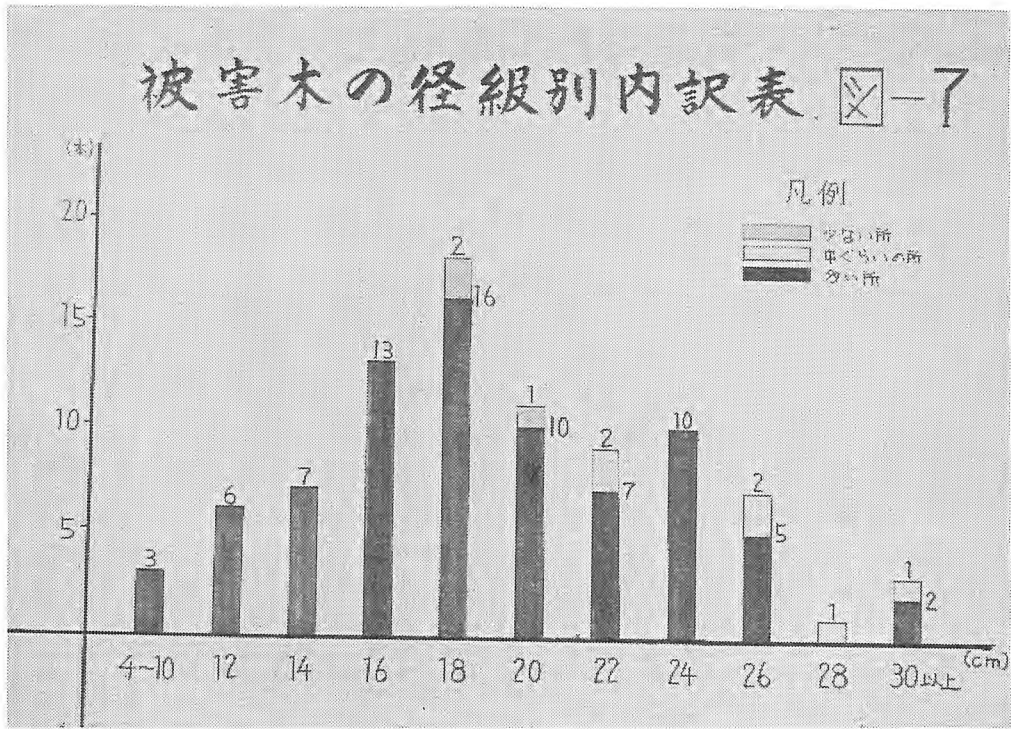
写-5



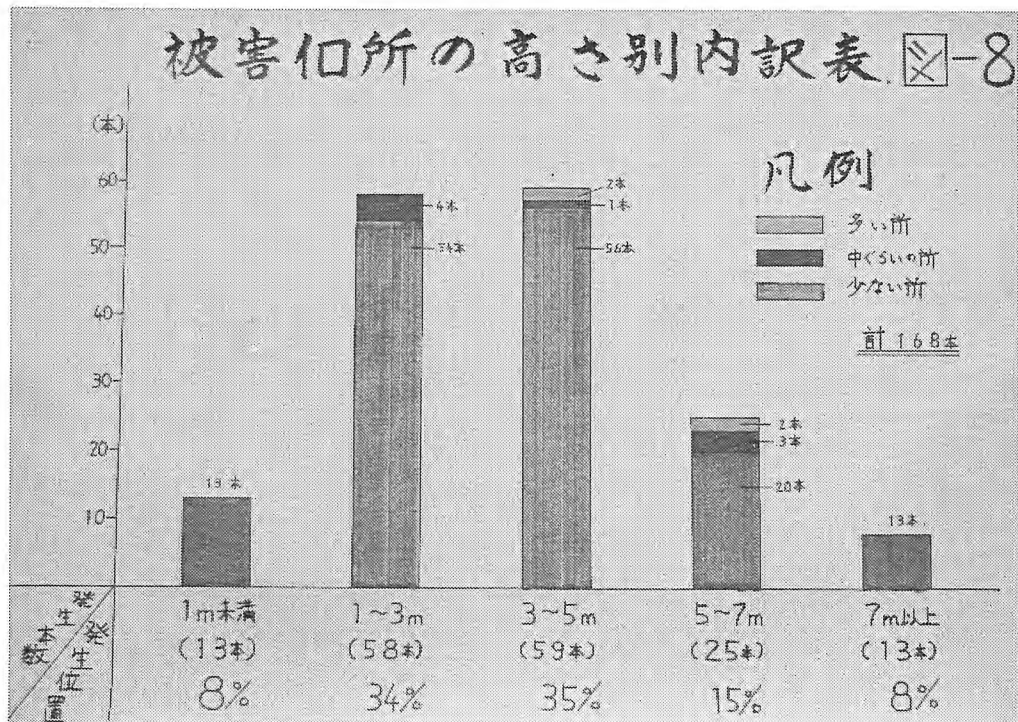
写-6



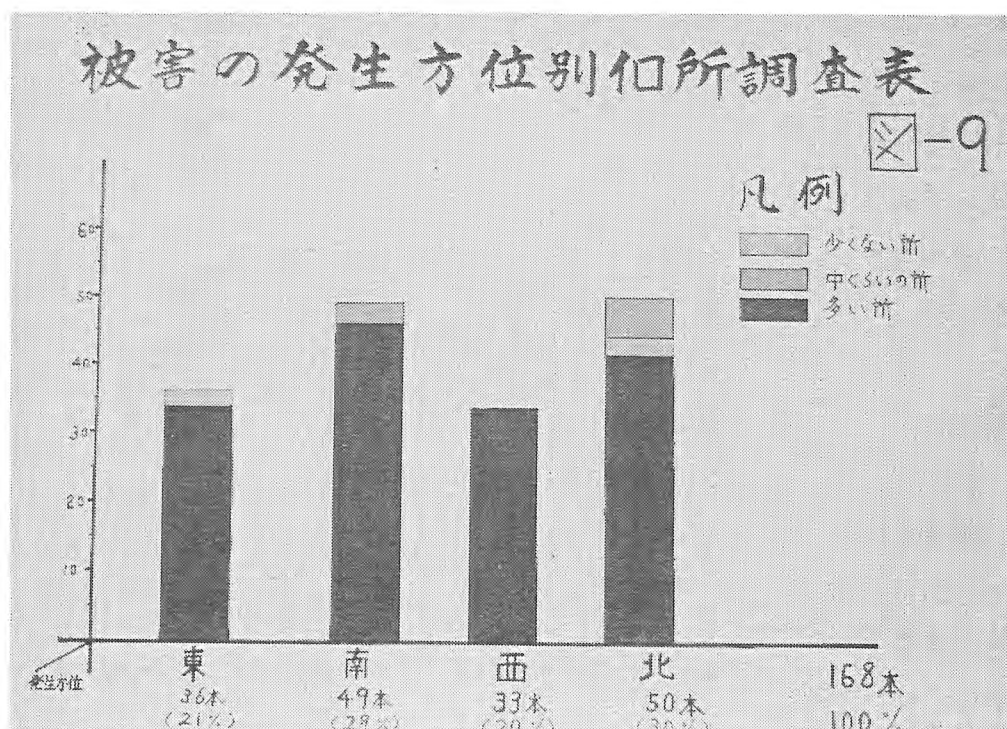
被害木の径級別発生割合を見ますと、18cmが一番多く、径級が大きくなるにしたがって少なくなっています。（図-7）



被害箇所の地際からの高さ別割合を見ますと、1m未満が一番少なく3~5mに一番多く発生しています。（図-8）



被害箇所の発生方位別割合を見ますと全方位に発生しており、北、南にやや多く発生しています。（図-9）



今回の調査でヒノキ漏脂病とヒバ漏脂病の特徴的な違いはヒノキでは、30年生位の若齢林に発生するそうですが、ヒバでは初期の発生林齢は分からないが、現在70年生以上の林齢に多く発生しています。発生箇所の地上からの位置は、ヒノキでは1m以下に主に発生するそうですが、ヒバでは2~7mと高い位置に発生しています。

また、ヒバの被害箇所の内沢沿い、中腹、峰では沢沿いに多く発生しています。純林と混交林では純林に多く発生しています。共通することは、寒冷積雪地帯であること、立地の良い土壤型のところに多く発生することです。

5 おわりに

今回の被害調査では、ヒバ人工林のうち一部分より調査出来なかったため、具体的な被害原因等は分からなかったが、被害箇所の状況等を知ることが出来ました。

今後成林に至る段階で、形状や材質、成長等にどのような影響するか等継続して調査観察しながら、貴重なヒバ人工林ですので優良造林地育成に努めて参りたいと思います。